

Snyk

ソフトウェア脆弱性診断ツール

お客さまのメリット

セキュリティ対応を負担とせず、高品質なソフトウェア開発を実現

脆弱性の
迅速な対策を支援

新たな脆弱性を
継続的に検出し対策

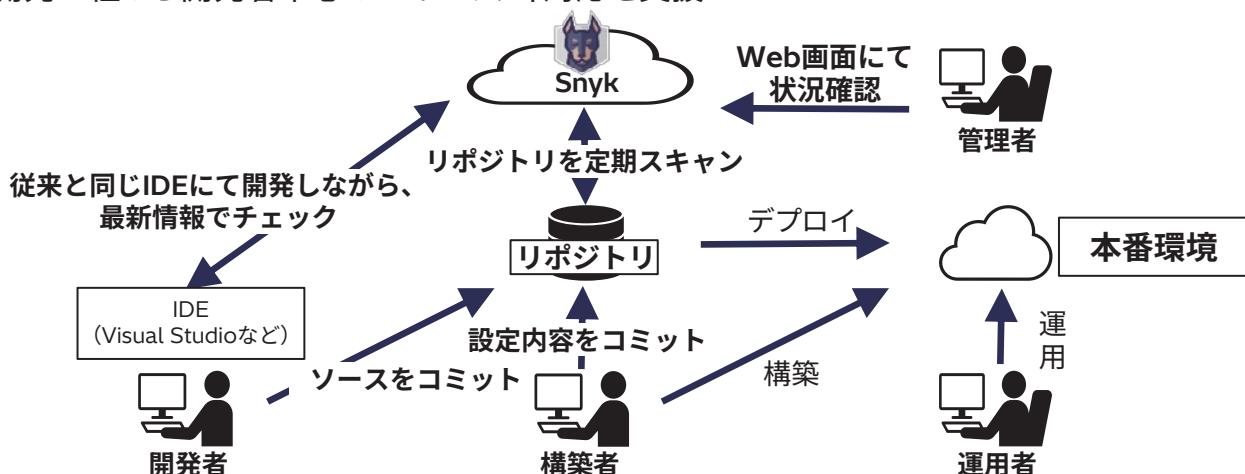
サプライチェーンを
含めた脆弱性を対策

特長と概要



1. 脆弱性の迅速な対策を支援

開発ツール(IDE、CI/CDツールなど)と連携し、リポジトリを最新の脆弱性情報で随時チェック
開発工程から開発者中心のセキュリティ対応を支援



2. 新たな脆弱性を継続的に検出し対策

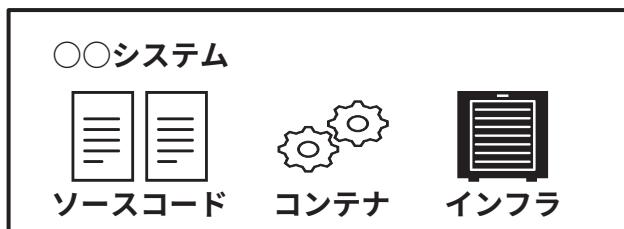
専任チームが管理する高品質な脆弱性データベースで、迅速なセキュリティ対応を支援

3. サプライチェーンを含めた脆弱性対策

システムの構成要素の管理として普及が期待されるSBOM*に対応することで、サプライヤーの脆弱性の管理を支援

*SBOM (Software Bill of Materials) : ソフトウェア部品表

さまざまな要素で構成されたシステム



構成要素の一覧化 (SBOM)

導入効果

Case1 アプリケーション開発および運用フローにSnykを適用

- 課題：OSS利用の増加によりソフトウェア開発におけるセキュリティ対応の簡素化
➢ 効果：開発工程からソースコードを静的解析しコードに潜むセキュリティリスクを軽減、テスト工程以降の手戻り工数を削減
- 課題：ソフトウェアのリリース後も継続的な脆弱性診断が必要
➢ 効果：日々更新されるOSSやコンテナの脆弱性はSnykが脆弱性データベースで管理しているため、本番リリース以降も継続的に脆弱性をチェック可能



Case2 CRA*等の国際的に要求されるセキュリティ基準に対応

- 課題：2026年よりCRAの適用が開始されることに伴い、EU域内に自社製品を流通させる場合は、要求されるフォーマットに沿ったSBOMの作成が必須となった
➢ 効果：Snykでは標準的なフォーマットである「CycloneDX」および「SPDX」に対応したSBOMの作成が可能であるため、CRAの要件にも対応
- 課題：海外の法令や規格に準拠したセキュリティ対策が必要
➢ 効果：SnykではCWE*、CVE*規格、およびCVSS*スコアといった海外で要求される規格にも対応しているため、CRAのセキュリティ対策の基準にも対応

*CRA(The Cyber Resilience Act)：欧州サイバーレジエンス法

CWE(Common Weakness Enumeration)：共通脆弱性タイプ一覧

CVE(Common Vulnerabilities and Exposures)：共通脆弱性識別子

CVSS(Common Vulnerability Scoring System)：共通脆弱性評価システム

Case3 PSIRT*業務の効率化および負担軽減

- 課題：国際的に要求されるセキュリティ基準の高度化のみならず、管理対象となる製品の拡大や脆弱性情報量の増加等、PSIRTのセキュリティエンジニアへの負担が増加
➢ 効果：脆弱性の検出や脆弱性情報の更新ならびに通知の自動化に対応しているため、PSIRT業務の効率化および負担軽減に貢献
- 課題：脆弱性が発見された際の初動から対応完了までの時間を短縮させたい
➢ 効果：SBOMが作成されることにより、ソフトウェアを構成するコンポーネントの情報が一覧化されるため、脆弱性の特定から初動・対応完了までの時間短縮に寄与

*PSIRT(Product Security Incident Response Team)：自社製品・サービスのセキュリティ管理を専門に行うチーム

株式会社 日立システムズエンジニアリングサービス

お問い合わせは

本社：〒220-8132 横浜市西区みなとみらい2-2-1

横浜ランドマークタワー32階

www.hitachi-systems-es.co.jp



※本カタログに記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

※本カタログに記載されている内容、仕様については、予告なく変更する場合があります。

※本製品を輸出する場合には、外国為替および外国貿易法ならびに、米国の輸出管理関連法規などの規制を御確認の上、

必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、当社営業にお問い合わせください。